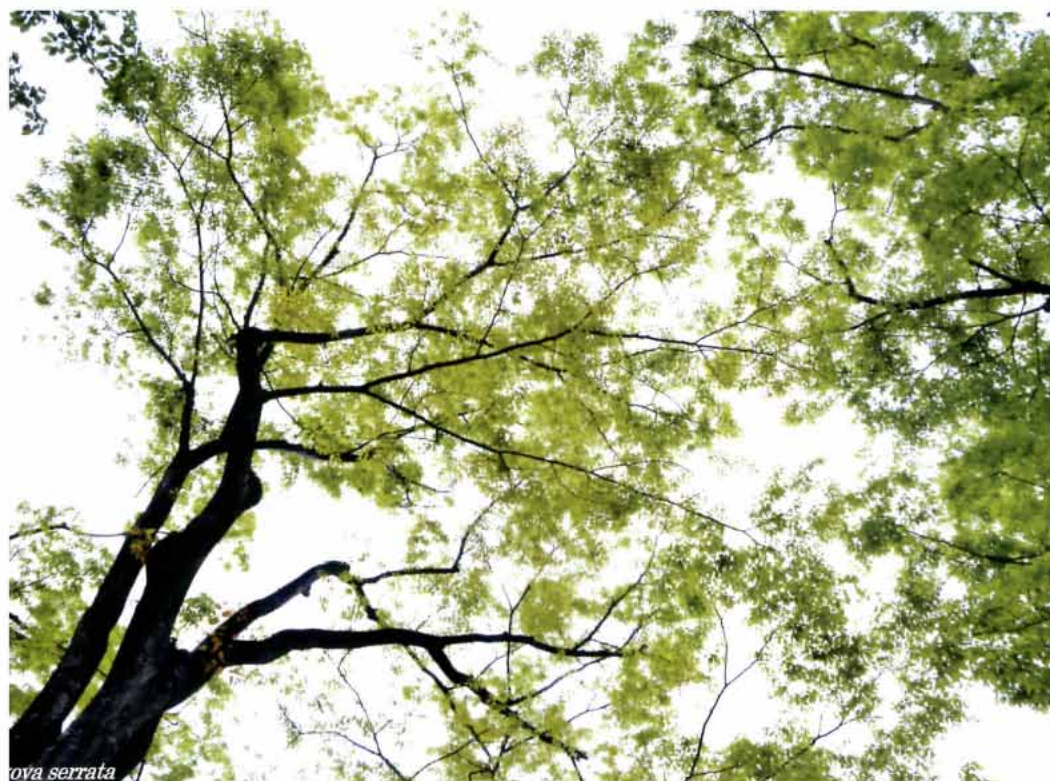


新入生にすすめる 50 冊の本



2013

[表紙写真 ケヤキ（樺、学名：*Zelkova serrata*）]

大学のシンボル「樺の葉」をモチーフに、福山大学のシンボルマークが制定されました。それぞれ形・色合いの異なる個性ある5枚の葉が融合する様子が表現されています。独創的なバランスで構成された葉のレイアウトは、鳥の羽ばたきのようにも見え、若々しい躍動感を表現しています（「シンボルマークコンセプト」より）。

このようなシンボルマークコンセプトを1枚の写真として焼き付けてみました。

写真提供： 西尾 廣昭（薬学部・教授）

撮影場所：大学会館前・樺並木

自分の言葉を磨くために

日常生活において、新しい言葉に出会うことにより、物の見方がそれまでと違ってより深くなってくることがあります。また、メールやレポートを作成する場合、「もっと優れた文が書けたらなあ」とか、「もっといい言葉が使えたらいいのに」と思うことがあるかも知れません。これからの大学生活で文章を作成する機会は、数え切れないくらいあるはずです。そのような時に、自分の考えていることを、出来る限り明快かつ的確に表現できるということは、大学生としてだけでなく、卒業後の社会生活や職場においても、欠かせない能力であると思います。その能力を大学時代に磨いておくことは、皆さんの将来の可能性を拓ける重要な鍵になるのではないかと考えます。

福山大学附属図書館では、入学生の皆さんが、日頃から本に親しみ、教養を高め、自分の考えを優れた言葉で、しっかり発信できるようになることを願っています。それが将来、社会で活躍するための土台作りになることは間違いありません。『新入生にすすめる 50 冊の本』は、そうした願いの一環として刊行されました。

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会



人生の道しるべ

この本を笑いながら読めるようになってください 沖 俊任
『パパラギ』ツイアビ 著1

シベリア抑留に屈しなかった人々の感動の物語 尾田温俊
※『収容所から来た遺書』辺見じゅん 著2

人は一生をどう生きるべきかを
あらためて考えさせられる実話本 亀井聖文
※『はなちゃんのみそ汁』
安武信吾，安武千恵，安武はな 著3

人間を大切にする会社を選べ 清水厚實
※『大人の流儀』伊集院静 著4

一流の人は常に目標を念頭に置く 清水 光
※『一流の人に学ぶ自分の磨き方』スティーブ・シーボルド 著5

ただのゾウではないんやゾウ！ 夢をかなえる、そのために
ゾウの神様の言うとおり、試してみませんか 菅谷恵美
『夢をかなえるゾウ』水野敬也 著6

弱者の、弱者による、弱者のためのフェミニズム 田中久男
『不惑のフェミニズム』上野千鶴子 著7

気持ちがなえたとき、つい下を向いてしまうとき・・・

あなたの心に「グッ」とくる一言がここにはある!! 中浦嘉子

『「グッ」とくる言葉』晴山陽一 著8

一度は読んでおきたいと感じる、人生の哲学書 中根優輝

『十二番目の天使』オグ・マンディーノ 著9

Your Partner for Success “成功へのパートナー”

～社会から求められる人材になるために～

知力、人間力、そして先見力

さあ、今日から始めてみませんか? 中村 博

『18歳からのキャリアプランニング』大久保功[他]著10

生まれ変わらせてくれる薬はないが、

生まれ変わらせてくれる本はある 滑川 初

『7つの習慣』スティーブン・R・コヴィー 著11

ダメじゃけど大丈夫。だってそばに誰かおるんじゃけ

渡邊未来

『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』鈴井貴之 著12



学びの道しるべ

- 大学工学部を舞台にした推理小説
『冷たい密室と博士たち』森博嗣著 岡谷良二13
- ほんの少しの勇氣と知恵と行動力でできること 片桐重和
『コトラーが教えてくれたこと—女子大生バンドが
実践したマーケティング』西内啓、福吉潤著14
- 大事なことはシンプルで身近にある
読書もしかりです（図書館開いてます） 阪田信広
※『純粋ツチャ批判』土屋賢二著15
- 文科系学生のためのレポートの書き方
事実の記述から意見の陳述へ 下岡輝也
『レポートの組み立て方』木下是雄著16
- データを正確に理解して、正しく情報を読み取る
塚原一郎
『データの民』田村秀著17
- 学生生活に影を落とす身近な危険とその予防法、対処法を紹介！
学生生活をより充実させるための必携書： 中東 潤
『大学生がダマされる50の危険』
三菱総合研究所、全国大学生生活協同組合連合会著18

- 英語の好きな人も嫌いな人も読んで納得!
大学での外国語学習のバイブル! 西田 正
『外国語学習の科学』白井恭弘 著19
- 常識に捉われない、新しい考え方を見つけることができる
そんな本です 山本 寛
『隠された十字架～法隆寺論～』梅原猛 著20
- 競争原理・社会弱者救済をどう考えるか 李 森
※『効率と公平を問う』小塩隆士 著21



こころの道しるべ

- こんなにも感じやすいのか、心って!そして若いって!
青野篤子
『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー 著22
- 迎合する自分から戦う自分へ 保身の自分から信念の自分へ
人とのコミュニケーションのために 泉 潤慈
『言いたいことが言えない人』加藤諦三 著23
- 思い込みの危うさを学ぼう 占部逸正
『超常現象をなぜ信じるのか』菊池聡 著24

いろんな視点に気付ける一冊
『わたしと小鳥とすずと』金子みすゞ著 大谷 恭子
.....25

本当の「やさしさ」って、どんな「やさしさ」なんだろう？
塩見 浩人
『やさしさの精神病理』大平 健 著
.....26

“あたりまえ”ではない時間の不思議さにふれる本
田中 聡
『大人の時間はなぜ短いのか』一川 誠 著
.....27

愛について考えてみませんか！
自分の生き方を考えてみませんか！
鶴田 泰人
『愛するということ』エーリッヒ・フロム 著
.....28

日本人であることの誇り
原口 博行
『国家の品格』藤原正彦 著
.....29



科学の道しるべ

未来を想像してみませんか？
稲野 碧
『フューチャー・イズ・ワイルド』
ドゥーガル・ディクソン、ジョン・アダマス 著
.....30

原発について事実を知りたい方におすすめの一冊 瓜倉真衣
『原発のウソ』小出裕章 著31

人間×科学＝無限の可能性!

生死の境界線も、人間の努力と科学の進歩で動かせる?

川上さおり

『人間はどこまで耐えられるのか』フランセス・アッシュクロフト 著
.....32

やりたいことをあきらめてしまいそうな時に 北口博隆

『フェルマーの最終定理』サイモン・シン 著33

超難解科学を身近な生活からリアルに見なおす 桑田成年

※『感じる科学』さくら剛 著34

自然科学は小説より奇なり 伍賀正典

『空想自然科学入門』アイザック・アシモフ 著35

科学の革命と進歩 久松太郎

『科学革命の構造』トーマス・クーン 著36

生きているということはどういうこと?

詩的ムードが漂う科学ミステリー

佐藤理恵

『生物と無生物のあいだ』福岡伸一 著37

この世界はたまらなく複雑で、そしてたまらなく魅力的。

藤居尚子

※『ガイドツアー複雑系の世界』メラニー・ミッチェル 著 ……38

あなたも天才?!?

松田文子

『天才はなぜ生まれるか』正高信男 著 ……39

これで数学的思考はバッチリ!

三川 敦

『数学的思考の技術』小島寛之 著 ……40

「森は海の恋人」運動に取り組んできたカキじいさんの、
命と地球をはぐくむ「鉄」物語

山崎理央

『鉄は魔法つかい』畠山重篤 著 ……41

バイオロギング

—動物たちの知られざる姿が明らかに

渡辺伸一

『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ』佐藤克文 著 ……42



文学の道しるべ

宇宙と死後の世界から「生きる」とは何かを考える

青木美保

『銀河鉄道の夜』宮沢賢治 著 ……43

興味深い演奏論 音楽と文学に通底する表現論の世界

位藤邦生

『小澤征爾さんと、音楽について話をする』小澤征爾×村上春樹

……44

生きること、自分の大切さに気付ける一冊

内海敬絵

『ハッピーバースデー』青木和雄，吉富多美 著 ……45

もう一度、古典を

金尾義治

『日本語の古典』山口仲美 著 ……46

僕たちの両手はなにかを掴むためにある

竹中克文

『半分の月がのぼる空』橋本紡 著 ……47

読まないままに死んでしまうにはあまりにも惜しい

それに、面白い!

富士彰夫

『罪と罰』ドストエフスキー 著 ……48

医療の現実—地方、老人、救急、末期等々の諸問題—

森田哲生

『神様のカルテ』『神様のカルテ2』夏川草介 著 ……49

海辺の街での退屈なひと夏の物語

山中友貴

『風の歌を聴け』村上春樹 著 ……50

備考：所属は平成 25 年 3 月現在です。

※は 2013 年に新たに推薦された本です。



この本を笑いながら読めるようになってください
『パパラギ』

—はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集—

エーリッヒ・ショイルマン 編著

岡崎照男 訳（ソフトバンク文庫）

自分が他の人と違っているかもしれない、
そう思うことは無いでしょうか。

あるいは、日本人は昔からそうなのかもしれ
ません。中国や西洋等から、日本人は新しい
ことを吸収し、そして、進歩してきた、と語ら
れます。中には、保守的とか、相手の本質が嫌
いとか、自分と自分の属する集団のプライドの
ためとか、そうでない人も多くいたでしょう。

では、自分は何を頼りに、どう考えるか……。

この本は、『パパラギ』の主人公、サモアの
酋長ツイアビがヨーロッパを回って感じたこ
とを島民に話す、という物語です。

ツイアビは見てきたことを、島民に「たく
さんの島々のかしこい兄弟たちよ！」と語りま
す。だまされるな、自分の価値観をないがしろ
にするな、ものごとを正しく見つめろ、と。

この本は、自分にとって何が大事なことの
かを考える一つの方法を暗示しているので
しょう。「本を読む」という、ここではツイア
ビの講演を聞くという、疑似体験を通して、自
分について考える頼りを増やしてください。

沖 俊任（電子・ロボット工学科）



シベリア抑留に屈しなかった人々の感動の物語

『^{ラーゲリ}収容所から来た遺書』

辺見じゅん 著（文春文庫）

1945年の敗戦で、旧満州、樺太などからソ連軍によってシベリアに連行された日本人は約60万人と言われています。広大なソ連領内の捕虜収容所に収容され、酷寒のシベリアで飢えと重労働の日々の中、日本への望郷の思いを抱いたまま死亡した人々の数は7万人以上と言われています。

この本は、捕虜収容所で死んだ山本^{はたお}幡男氏の物語です。強制収容所で山本氏が密かに書いた遺書が、戦後も11年振りに帰国した友人たちにより「記憶」という尋常でない手段によって、帰国後に復元されてほぼ完璧な形で遺族に届けられるという奇跡が起きました。

遺書は全部で「本文」「お母さま!」「妻よ!」「子供等へ」の4通、ノート15ページにわたって書かれていました。子供達に宛てられた遺書は日本人に対する力強いメッセージにもなっています。過酷な状況に置かれてもなお人間らしく生き、不屈の精神と生命力を見せた人々に感動する内容です。

尾田 温俊（国際経済学科）



人は一生をどう生きるべきかを
あらためて考えさせられる実話本

『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾、安武千恵、安武はな著（文藝春秋）

夫（信吾）34歳、妻（千恵）23歳の時に二人は巡り会い、長距離恋愛の途中で、千恵の左乳房に悪性の乳がんが見つかる。左乳房全摘というつらい選択を乗り越え、信吾は難色を示す両親を説得の末、千恵と結婚。躊躇する千恵に信吾、千恵の実父、主治医も産む事を勧め、愛娘「はな」が誕生。再発と全身転移が認められ、夫婦のがんとの闘いは壮絶さを増す。千恵は「はな」の先行きを案じ、敢えて厳しくしつけ、5歳になったばかりの「はな」にみそ汁を作らせる。33歳で逝った母千恵との「約束」を懸命に守る娘と父、その後の父子二人の生活も味わい深く、人は一生をどう生きるべきかをあらためて考えさせられる一冊（実話）としておすすめします。

亀井 聖文（職員）



人間を大切にする会社を選べ

『大人の流儀』

伊集院静 著（講談社）

作家としてのデビュー作『皐月』をはじめ『白秋』『アフリカの王』『海峡』などのほか、作詞家としても「ギンギラギンにさりげなく」「愚か者」などを発表し、吉川英治文学賞や直木賞、柴田錬三郎賞など数々の文学賞に輝いた伊集院静氏の最近作『大人の流儀』をおすすめいたします。

伊集院氏は、立教大学を卒業したあと作家となり、あの有名な女優夏目雅子さんと結婚したが、その後間もなく新婦が白血病にかかり、早逝するといった悲しい経験を持った作家であります。妻を失った悲しみや思い出をはじめ、政治、経済、社会などに対する批判や、ごくあたりまえの市井人の生活をコミックに描いたおもしろい本です。

また、学生の就職に当たっては、企業の名声や資本金、株価等ではなく、本当に社員を大切にする会社、人間尊重の会社を選ぶように指南しています。皆さんの人生や就職の上で必ずや参考になる本だと思っておすすめ致します。

清水 厚實（理事長）



一流の人は常に目標を念頭に置く

『一流の人に学ぶ自分の磨き方』

スティーブ・シーボルド 著

弓場隆 訳（かんき出版）

本書は、20年の歳月を一流の人の研究に捧げてこられたスティーブ・シーボルド氏によって書かれたものです。最初に、一流の人は非凡な結果を出す人であり、二流の人は平凡な結果を得ている人と、結果をもとに両者を分類しています。つぎに、二流の人が一流の人になるために、一流の人になると強く決意することだと述べられています。具体的な実践方法として、①自分に語りかける言葉を二流のレベルから一流のレベルにグレードアップする。②ポジティブなイメージトレーニングを実行して、思いどおりに物事が展開するように工夫する。の2点を指摘されています。大変説得力のある一書であると思い、推薦させていただきました。

清水 光（情報工学科）



ただのゾウではないんやゾウ！

夢をかなえる、そのために
ゾウの神様の言うとおりに、試してみませんか

『夢をかなえるゾウ』

水野敬也 著（飛鳥新社）

「変わりたい」自分の情けなさに、やけ酒をして酔いつぶれた翌朝、突然、「覚悟、でけてるわな？」と目の前に現れた関西弁のあやしいゾウの化け物。夢をかなえるそのために、あなたなら変わる覚悟ができますか。

主人公は「人生を変えよう」と何をやっても、結局、三日坊主で終わってしまうサラリーマン。そこに現れた、“自称インドからきたゾウの神” ガネーシャは、自分の言うことを聞けば必ず成功すると言います。現実問題、なんとも胡散臭いお話ですが、主人公は自分を変えたい一心で、言われるがまま成功の契約を結びます。肝心のガネーシャは一日一つ誰でもできる簡単な課題を出すだけ、無理やり住みついてわがまま言いたい放題です。主人公は本当に成功できるのでしょうか。

この本、サラリーマン向けの自己啓発本だそうですが、そういった印象は全く受けませんでした。二人のやり取りはまるで漫才のようで、何度も大笑いして、どんどん引き込まれていきました。そのうちに、あの胡散臭かったガネーシャが出した課題はとても大事なことのようになり心に響いてびっくり。私の前にも是非、現れて欲しいです。

菅谷 恵美（海洋生物科学科）



弱者の、弱者による、弱者のためのフェミニズム

『不惑のフェミニズム』

上野千鶴子 著（岩波現代文庫）

アメリカのベティ・フリーダンの『女らしさの神話』（現在は『新しい女性の創造』として出版）（1963年）、ケイト・ミレットの『性の政治学』（1970年）によって着実に進展したフェミニズム運動を、日本で引きつぎ、開拓し、先導してきたのが、「挑発にはのる、売られたケンカは買う、乗りかかった舟からは降りない」をモットーとする筋金入りの上野千鶴子です。彼女が明快に主張するように、彼女たちが目ざす最終目標は、「フェミニズムがいなくなる社会」、つまり、「弱者が弱者のままで尊重される社会」です。このフェミニズム運動のおかげで、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントという考え方が、いじめられた側の、被害をうけた側の人間が、ただ沈黙して耐えることをしいられてきたそれまでの風潮を、大きく変えてきました。「女性よ“おしん”はもうやめよう」というメッセージが、それを語っています。曾野綾子への反論は、ケンカのよいお手本です。

田中 久男（人間文化学科）



気持ちになえたとき、

ついで下を向いてしまうとき・・・

あなたの心に「グッ」とくる一言がここにはある！！

『「グッ」とくる言葉—先人からの名言の贈り物』

晴山陽一 著（講談社）

2011年に亡くなったアップルコンピュータの創業者であるスティーブ・ジョブズの名句から始まる本書は、落ち込んだ時や壁にぶつかった時に是非手にとってもらいたい本です。歴史上の偉人だけでなく、ジョニー・デップやイチローなど現在も各界の第一線で活躍している人達の言葉を日にすると、彼らの頭の中を少しだけ覗くことができたような気がします。どんな天才にも私達と同様に悩みはありますし、苦しい局面に見舞われることだってあります。ただ、天才が天才と呼ばれる所以は、どんな困難な状況でもその状況をポジティブに捉えることができるのです。良い日も悪い日も今日という日を大切に「今から一年もたてば、私の現在の悩みなどおおよそ下らないものに見えることだろう」という精神で楽しく充実した学生生活を送っていただきたいと思います。そんな人生の新しい一步を踏み出すための背中を押してくれる一冊です。

中浦 嘉子（生命栄養科学科）



一度は読んでおきたいと感じる、人生の哲学書

『十二番目の天使』

オグ・マンディーノ 著

坂本貢一 訳（求龍堂）

この本を読んでいる中でとても印象に残る言葉があります。この本のタイトルでもある《十二番目の天使》であるティモシーの言葉です。

「絶対、絶対、絶対、絶対あきらめるな！」

「毎日、毎日、あらゆる面で、僕らはどんどん良くなってる！」

そんな彼の言葉は、仲間を励まし、自分自身もあきらめずに頑張っていく力となっていきます。そして、奥さんと息子を一度に亡くして、絶望の淵に立っていた主人公さえも元気づけていきます。

僕自身も中学校の時にこの本を読んで、『あきらめさえしなければ、夢はかなうんだ！』と、とても励まされました。

大学生となってそれぞれの夢に向かって歩んでいる今だからこそ読んでほしい、お勧めの一冊です。

中根 優輝 （メディア情報文化学科 2 年）



Your Partner for Success “成功へのパートナー”

～社会から求められる人材になるために～

知力、人間力、そして先見力

さあ、今日から始めてみませんか？

『18歳からのキャリアプランニング』

—これからの人生をどう企画するのか？

大久保 功，石田 坦，西田 治子 著 （北大路書房）

この本では、就職だけでなく実り豊かな人生をどのように築くのか、キャリアデザイン（人生設計）について3人のキャリアカウンセラーが熱く語っています。対象は高校生、専門学校生、大学生とその御両親です。自己の長期的なキャリアを展望し、その初期の学生時代をどう充実させるのか、思考するヒントが沢山見つかります。人生の方向を見定めるには、自ら今後の人生を企画する事です。その原点は自己理解です。自分はどんな人間なのかを知ることです。どんな学生生活が自己を深く理解し、自己の将来像を見通す事につながるのか道標が記されています。現在、日本は閉塞感が漂い、若者を含む多くの日本人が、国や未来への夢・希望を抱けない社会です。自分が主役の一度きりの貴重な人生を、どう歩む事が、自分・自国・世界を良い方向に導くのか、先ず気づいてください！

中村 博 （国際経済学科）



生まれ変わらせてくれる薬はないが、
生まれ変わらせてくれる本はある

『7つの習慣』

スティーブン・R・コヴィー 著

ジェームス・スキナー, 川西 茂 訳

(キングベアー出版)

この本は成功するために7つの習慣が欠かせないと主張している。

7つの習慣とは

1. 主体性を発揮する (自己責任)
2. 目的を持つ (自ら立つ)
3. 重要事項を優先する
4. Win-Winを考える (人間関係)
5. 理解してから理解される (感情移入)
6. 相乗効果を発揮する (想像的な協力)
7. 刃を研ぐ (常時向上システム)

という内容です。

本書はボリュームが多いですが、是非最後まで読んで頂きたいです。ただ、読むだけでなく、実行すればきっと効果は出ると思います。

滑川 初 (税務会計学科 平成24年3月卒業)



ダメじゃけど大丈夫
だってそばに誰かおるんじゃけ

『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』

鈴木貴之 著（MF 文庫）

『ダメ人間 溜め息ばかりの青春記』。
タイトルを見たら人はこう考えるだろう。「新
入生にすすめる 50 冊に適していない」と。

返す言葉ありません。貴方の思っている
ことはほぼ間違いありません。

皆さんは「自分がダメだ」と思ったことあ
りませんか？私自身よく思う人間です。そして
溜め息をつく。

でもダメだということを認めていることは
良いことなのではないでしょうか。

なぜなら、ダメである自分を見つけている
からです。

この本のあとがきに「溜め息は出発進行の
汽笛のように思えるかもしれない」とある。溜
め息をついて周りを見渡せばきっとそばに誰
かいる。

ダメな時に得た仲間はきっと力になってく
れる。勇気の湧いてくる一冊です。

よっ、ダメ人間!!

渡邊 未来（中泉 未来）

（人間文化学科 平成 24 年 3 月卒業）



大学工学部を舞台にした推理小説

『冷たい密室と博士たち』

森 博嗣 著（講談社文庫）

大学は、入学して決められた勉強だけをしていても、よくわからない場所で終わります。世の中には、卒業しても大学がよくわからないままという人も多いでしょう。本作は、殺人事件の解明が主軸ですが、大学というのはどういう場所なのかを教えてくれる傑作です。

工学部の教員と学生が主人公となり、大学で起きた殺人事件を解明していきます。その中に、大学における人間関係、教員が日々どのように暮らしているか、学生と教員はどんな風に接するのか、また、研究や学問とはどういうものかなど、大学の色々な要素が詰め込まれています。大学に数年在籍した人であれば「あるある」というネタが多いと思います。著者が大学教員であったときに執筆したからこそその現実感でしょう。

小難しい古典を読むのも大切ですが、現役ばりばりの大学人と接することが大学を楽しむのに必要だと教えられます。

岡谷 良二（経済学科）



ほんの少しの勇気と知恵と行動力でできること
『コトラが教えてくれたこと
—女子大生バンドが実践したマーケティング』

西内啓、福吉潤 著（ぱる出版）

自分のライブで失敗（お客さんがいない）
した翌日の授業をうわの空で聞くいまどきの
新女子大生（絢）が、失敗した理由は「マーケ
ティング不足」と指摘する大学講師（八千代）
に「人を幸せにする」ためのマーケティングを
学ぶお話です。

そこには、失敗した理由を知ろうと真剣に
「マーケティング」について学ぼうとする絢と
それに情熱をもって答える八千代がいます。コ
ンサートを失敗した理由を教えてくださいと
尋ねた絢に対して八千代は、「あなたはいった
い何がしたいのか？そしてなぜそれが重要な
のか？」と問題を出します。さて、絢は、どの
ような答えを導き出すのでしょうか？

この本は、大学における「先生」と「学生」
との在り方、教員の課題の出し方、それに対す
る学生の取り組み方について教えてくれてい
ます。大学で何を学ぶのか、学んだことは何に
どのようにいかせばいいのかについて、何とな
くしか答えられない人はぜひ読んでみてくだ
さい。

片桐 重和（情報工学科）



大事なことはシンプルで身近にある
読書もしかりです（図書館開いてます）

『純粹ツチヤ批判』

土屋賢二 著（講談社文庫）

散髪屋さんとか歯医者さんに行って順番を待つあいだ雑誌を読む。コンビニ等でも売っている週刊誌。そこに連載されているエッセイを書籍化したものが私の昔からの愛読書だ。旧くは故山口瞳の「老人日記」、東海林さだおの「丸かじり」、そして今回紹介する土屋賢二の「ツチヤ本」である。ツチヤ師こと土屋氏は哲学が専門で、藤原正彦氏と並ぶお茶の水女子大学の看板（現名誉）教授である。彼はユーモア・エッセイで自らの不幸を笑う。軽薄でクドいのが難点だが、意外なほど深遠な思想が輝きを放つ一瞬がある。他人の不幸話を面白おかしく気軽に楽しんでいた私は、いきなりはっとさせられ思わず線さえ引く。これぞツチヤ本の醍醐味である。
「顔かたちなどを具体的に書けば書くほど、美しさは減ってしまう」私たちは分かりやすさとの引き換えに、本来持つべき力を失ってはいないだろうか。

阪田 信広（職員）



文科系学生のためのレポートの書き方 事実の記述から意見の陳述へ

『レポートの組み立て方』 木下是雄 著（ちくま学芸文庫）

本書は文を作ることが苦手な学生がレポートを書くときの手引書であります。

レポートを書くために必要な注意事項、材料の集め方、構成の仕方、文章を書くときに必要なテクニックを丁寧に説明しています。話題の確定、主題文の書き方、参考文献を集める、アウトラインの作り方をレポートを書くときの同じ流れに沿って、少しずつ進んで読んでいくとレポートの組み立て方が自然と身に付いてきます。

正しい論理構成をするために、事実の記述と意見の記述の違いを詳しく述べており、卒業論文や修士論文で最も苦勞する、序論、特に考察を書く時にきっと役立つでしょう。

下岡 輝也

（人間科学研究科心理臨床学専攻 平成 24 年 3 月修了）



データを正確に理解して、
正しく情報を読み取る

『データの罠』

田村 秀 著（集英社新書）

現在は文系学部でもレポートや論文で統計データを利用することが多いです。統計データを使うと、物事を客観的に検証することができ、説得力が増します。しかし、使い方や理解を間違えると、全体の結論までおかしくなり、非常に危険です。

本書では世論調査などを例に挙げ、その解釈をするとき、どのような点に注意をするべきか、説明をしています。これはそのまま、大学のレポートや卒業研究でアンケート調査をする場合や統計データを解釈する際の注意点にも当てはまります。どのような人にアンケートをするか、どのような聞き方をするかで結果は変わってきます。このことは、社会人でも理解していない場合が多いので、大学生の間に、よく考えてみてください。本書で基本的なことを理解した後、社会調査や統計学の専門的な本を読んでみて下さい。

塚原 一郎（経済学科）



学生生活に影を落とす身近な危険と

その予防法、対処法を紹介！

学生生活をより充実させるための必携書！

『大学生がダマされる 50 の危険』

三菱総合研究所，全国大学生生活協同組合連合会 著

（青春新書）

大学生活を有意義なものにするためには、私生活を充実させなければなりません。特に一人暮らしを始めた新入生にとっては各種契約など、慣れないことが多く発生します。困ったことに、この世の中にはそのような社会に対して不慣れな新入生を狙った悪質な業者が存在し、大きな被害が出ているのが実情です。では、この世の中には一体どのような危険が潜んでいるのでしょうか？その形態は悪質商法やインターネット上でのトラブルなど、実に様々です。『大学生がダマされる 50 の危険』では、悪質な勧誘をはじめ、アルコール中毒、インターネット上の危険、一人暮らしのトラブル、交通事故、ドラッグ、金銭トラブルなど、学生が巻き込まれやすい危険を紹介し、かつその予防法や対処法が分かりやすく解説されています。大学生活を有意義なものにするためには、まず私生活でトラブルに巻き込まれないようにしましょう。そのための一冊です！

中東 潤（機械システム工学科）



英語の好きな人も嫌いな人も読んで納得！

大学での外国語学習のバイブル！

『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』

白井恭弘 著（岩波新書）

1808年イギリスの軍艦が長崎の出島に現われ鎖国政策を堅持していた江戸幕府に衝撃が走りました。いわゆるフェートン号事件です。日本人の英語学習はこの事件から始まりました。今から約200年前です。この本は英語学習のノウハウを扱った実用書ではありません。英語学習の基盤となる原理を第二言語習得の最近の理論から解明しています。母語の日本語が英語学習にどのように影響するのか（転移の問題）、なぜ子供はことばが習得できるのか（臨界期仮説）、どのような人が英語を身につけやすいのか（言語適性、動機づけ、性格などの個人差）、英語学習はどのようなメカニズムから成り立つのか、などについて、多くの研究事例を紹介しながら、具体的にやさしく述べています。本書は英語学習を理論的に考察する機会を与えてくれます。また、高校まで学習した英語のみならず大学に入学して初めて学ぶ外国語（ドイツ語、中国語、フランス語など）の学習にも大変参考になる本です。

西田 正（人間文化学科）



常識に捉われない、
新しい考え方を見つけることができる
そんな本です

『隠された十字架～法隆寺論～』

梅原 猛 著（新潮社）

「法隆寺」と言えば、聖徳太子が仏教を広めるために建立した寺院で、五重の塔や金堂などは世界最古の木造建築物としてもよく知られています。ところが、著者の梅原 猛氏は法隆寺に隠された謎から全く違う結論を導いています。その結論は「法隆寺は聖徳太子の怨霊を封じるために建立された寺」です。この大胆な仮説を証明するために、冒頭から次々と証拠を突きつけています。寺院の中門は仏様の通り道と考えられていますが、法隆寺の中門には門（かんぬき）があり通れないようにしてあります。五重の塔の頂上部には法輪が取り付けられていますが、法輪には大きな鎌が掛けられています。法隆寺には普通の寺院には見られない異様な構造物がいくつもあります。蘇我氏系の聖徳太子一族は藤原氏により誅殺され、そのために聖徳太子の怨霊を恐れた藤原氏が太子一族の鎮魂のために法隆寺を建立したという結論は、常識と全く異なるにも関わらず覆すのが難しく感じます。

山本 覚（生物工学科）



競争原理・社会弱者救済をどう考えるか

『効率と公平を問う』

小塩隆士 著（日本評論社）

経済学は、効率と公平性という2つの評価軸を持っている。簡単に言えば、効率性は「限られた資源をいかに効率よく配分するか」、公平性は「社会で生まれた所得をいかに公平に分配するか」という観点である。この2つが両立しない状況がしばしば生じる。経済効率を高める改革を行おうとすれば、それで所得が落ち込む人が出てくるので、改革に待ったがかかる。格差是正を目指し、その財源調達のために増税しようとするれば、経済活動にマイナスの影響が出てくる。このように2つの概念はトレード・オフの関係にあることが多い。

本書は、効率性と公平性の基本的な性格付け、日本の再分配の問題点、効率性と公平性から見た教育、世代間のゼロサム・ゲーム等についてわかりやすく説明している。

李 森（経済学科）

こんなにも感じやすいのか、
心って！そして若いって！

『ライ麦畑でつかまえて』

J. D. サリンジャー 著、野崎孝 訳（白水Uブックス）

主人公はホールデンという高校生の男の子。

勉強がきらいで退学処分になり、故郷のニューヨークに帰るのだが、欺瞞に満ちた大人社会に彼の居場所はない。昔の先生やガールフレンドに会っても心は通じない。ただ彼の理解者は妹のフィービーだけ。こういった何気ない3日間の生活が一人称で描かれている。

本の題は奇妙だが、ホールデンが妹に語った「ライ麦のキャッチャーのようになりたい。崖に落ちていく子どもたちを救いたい」ということばからきている。私が高校生の時、衝撃を受けた小説だった。心理学を志すようになったのはこの本の影響があるかもしれないと、今改めて思う。

大人への反抗精神、ガラスのように壊れやすい繊細な心、いらだちや葛藤、これらは今の若者にも共通した心理であろう。世界中の若者に共感をもって受け入れられ、読み継がれているのも理解できる。40年前に私が読んだ本を皆さんにお勧めしたい。

青野 篤子（心理学科）



迎合する自分から戦う自分へ
保身の自分から信念の自分へ
人とのコミュニケーションのために

『言いたいことが言えない人
—「恥ずかしがり屋」の深層心理』
加藤諦三 著（PHP 新書）

コミュニケーションが円滑に行くにはどうしたらよいのか。

この本は、恥ずかしがり屋の人が、自分自身を理解するための本であり、恥ずかしがり屋でない人が恥ずかしがり屋の人を理解するための本でもある。

恥ずかしがり屋の人は人に近づくのが怖い、人とうまくコミュニケーションできないから人付き合いが苦になる、できれば人と接したくない、人恋しいところがあるが接することが現実になると人を避けてしまう。

これらの問題を解決する本である。

迎合する自分から戦う自分へ
保身の自分から 信念の自分へ

泉 潤慈（税務会計学科）



思い込みの危うさを学ぼう

『超常現象をなぜ信じるのか』

菊池 聡 著（講談社）

私たちはよくお正月におみくじを引きます。おみくじを引いて大吉が出ると嬉しく、凶がでるとなんとなく先行きに不安を感じます。そして、何か悪いことが起こると、おみくじが当たったのではと考えます。逆に、野球などでは、連勝中はそのツキを失わないために負けるまでユニフォームを洗わなかったりします。こんなことに根拠はあるのでしょうか。また、見慣れないものが空を飛んだのを見るとそれはすぐにUFOではないかと考え、写真の背景に何か模様が見えると人の霊のではないかと考えたりします。もうひとつ、怖い怖いと思って夜道を歩いていると、ススキが少し揺れただけでも幽霊だと思ってしまいます。こんなことはどうして起るのでしょうか。本書は、「超常現象」を題材にして、人の認識がしばしば現実起こっていることとはかけ離れたものになる仕組みとその実生活での落とし穴を説き明かします。なにが間違いでなにが未知なのか不確実な現代を生きる私たちには欠かせない一冊といえます。

占部 逸正（情報工学科）



いろんな視点に気付ける一冊

『わたしと小鳥とすずと』
金子みすゞ 著（JULA 出版局）

この本にも掲載されている彼女の詩「こだ
までしょうか」は東日本大震災直後たびたび流
れた CM でご存知の方も多いかもかもしれません。

金子みすゞは明治 36 年（1903 年）山口県大
津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれた童
謡詩人です。

20 歳の頃から書き始め 26 歳という若さで
この世を去りましたが、他にも多くの作品を遺
しています。

どの作品からも優しいまなざしが感じら
れ、彼女の詩を初めて読む方におすすめの一冊
です。

大谷 恭子（職員）



本当の「やさしさ」って、
どんな「やさしさ」なんだろう？

『やさしさの精神病理』

太平 健 著（岩波新書）

「やさしさ」ってなんだろう？それは、時代や世代により捉え方が違います。あなたは友達と遊んでばかりで試験に落ちたとき、友達が不快になっても、はっきりと問題を指摘し、改めるよう助言しますか？ 相手の心に踏み込まずやさしくそっとしてあげますか？

著者によると、前者のやさしさは皆さんの親の世代、あるいは学校の先生たちの「Hotなやさしさ」で、後者は現代の多くの若者が好む「Warmなやさしさ」なのだそうです。若者にとって、「Hotなやさしさ」は、真剣なやさしさであるからこそ、「一番嫌いなやさしさ」になってしまうのだそうです（あなたはどうですか？）。

そんな若者が悩んだとき、どうするのでしょうか？ 「Hotなやさしさ」は嫌いだし、「Warmなやさしさ」では問題は解決しない！ そこにもう一つ、「Coolなやさしさ」があるのだそうです。いろいろなやさしさをよく理解し、上手に使い分けましょう！

塩見 浩人（薬学部）



“あたりまえ”ではない時間の不思議さにふれる本
『大人の時間はなぜ短いのか』

一川 誠 著（集英社新書）

一見当たり前だという常識的なことが意外と自分勝手な思い込みにすぎないことがあります。日々の習慣や社会経験の中だけでなく、一見厳密に作られたかのように見える科学の世界にだってあります。本書が語るのはそうした事象の一つである、“年をとるほどに1年が早く過ぎ去る”というだれしもが実感する感覚を筆者の専門である心理学の立場から解き明かそうとしています。

よく知られた説明として「30歳の人の1年は10歳の人の1年の3分の1だから、その比で短く感じるのです」というものがあります。みなさんはこの説明で納得してしまっていないでしょうか……。筆者はこの説明は現在では“検討すべき仮説とは見なされていない”と一刀両断しています。真実は何か。是非本書を読んでみて下さい。時間というものの不思議さを知ることになるでしょう。

なお、本書では主題のテーマに付随して、生理学や心理学の最新の研究結果にも触れられており、興味の沸く一冊です。

田中 聡（電子・ロボット工学科）

愛について考えてみませんか！
自分の生き方を考えてみませんか！

『愛するということ』

エーリッヒ・フロム 著、鈴木 晶 訳（紀伊国屋書店）

原著の題は *The Art of Loving* です。本書は「愛は技術である」という前提のもとに、「愛は技術か」「愛の理論」「愛と現代西洋社会におけるその崩壊」「愛の習練」の4つの章から成っています。

愛とは能動的な活動であり、受動的感情ではない。愛は与えることであり、もらうことではない。幼稚な愛は「愛されているから愛する」という原則にしたがい、成熟した愛は……。未成熟な愛は「あなたが必要だから、あなたを愛する」と言い、成熟した愛は……。また、愛する対象の種類によって、「兄弟愛」「母性愛」「異性愛」「自己愛」「神への愛」の5つを上げています。そのなかで、「自己愛」と「利己主義」や「非利己主義」との違いもはっきり述べています。著者は、「愛する」には、理論を学び、その習練に励むことが必要と述べています。挑戦してみませんか！

鶴田 泰人（薬学部）



日本人であることの誇り

『国家の品格』

藤原正彦 著（新潮新書）

数年前のある新聞社の世論調査で、日本国民であることを誇りに思う人が、その 10 年前に比べてずっと増えていました。市場原理主義・グローバリズムに踊らされた我国に杞憂を抱き、改めて日本の「歴史・伝統・文化」、「国土や自然」さらには「国民性」についての思いが現れたのではないかと、本書の出版後に藤原氏は述べられています。

長い歴史を持つ日本は「情緒と形の文明」を国柄に有し、受け継がれる精神は美德を忠義に実践する「武士道」であることを忘れかけている人々が多いと、ある種の警鐘を投げかけておられます。

一昨年（2011 年）の 3・11 大震災では多くの国民が拭いきれない悲しみを背負い、未だその復興は充分ではありません。経済活動は活性化する予見があり、政治も方向性を見出してきましたが、社会は未だ渥迷しています。この時にこそ、日本国・日本人を見つめなおす一つのきっかけにと本書を推薦致します。

原口 博行（生物工学科）



未来を想像してみませんか？

『フューチャー・イズ・ワイルド』
ドゥーガル・ディクソン、ジョン・アダムス 著
土屋晶子 訳（ダイヤモンド社）

誰もが一度は図鑑などで古代や現代の生物学に触れたことがあることでしょう。しかし本書は過去でも現代でもなく、誰も知りえない未来の生物たちを、国際的な専門チームが生物学と進化論の基本的原則にのっとして想像したとてもダイナミックかつ今まで見たこともないような生物史です。

「生物なんて勉強してないからわからない」という人も、過去の生命の歴史から詳しく説明してあって読みやすい内容になっており、イラストもコンピューターアニメーションによって想像を掻き立てるものとなっています。ぜひ手にとって読んでみてください！

稲野 碧（海洋生物科学科 2 年）



原発について事実を知りたい方におすすめの一冊

『原発のウソ』

小出裕章 著（扶桑社新書）

著者は、かつては原子力に夢を持ち、研究をされていた方です。しかし、学ぼううちにその危険性を知り、40年前から原発反対を訴え続けてこられました。私は3.11以降、原子力について考えることが多くなりましたが、どのように原子力が危ないのか？、安全な被爆量はあるのか？、なぜ地震大国の日本に原発がたくさんできているのか？・・・と様々な疑問が沸いてきたため、それら疑問を解消すべく本書を手に取りました。上記の疑問についても詳しく分かりましたが、それ以外にも、原発を止めても電気は足りることや、地震の頻発する国で原発があるのは世界中のどこを探しても日本だけという事実を知り、今まで「原発は未来のエネルギーとして必要」と漠然と思っていた自分の考えが180度転換しました。原発のある国に住んでいる以上、これから原発の影響は少なからず受け続けることになります。原発について知っておきたい方におすすめの一冊です。

瓜倉 真衣（生命栄養科学科）



人間×科学＝無限の可能性！
生死の境界線も、
人間の努力と科学の進歩で動かせる？

『人間はどこまで耐えられるのか』
フランセス・アッシュクロフト 著，矢羽野薫 訳
（河出書房新社）

「人間ってすごいんだあ」と思わせてくれる 1 冊です。

この本の原タイトルは *The science of survival* です。つまり厳しい条件のもとで生き残ることについて書かれた本です。私たちは極限状態に置かれた時にどうなるのかを生理学的に説明しながら、生き延びるための限界を探ります。例えば、氷の下に落ちてしまったら、空の上で飛行機の窓がなくなってしまうたら…。

なんだか難しそうな本だと思うかもしれませんが、しかし、まずは手にとって見てください。難しいより“面白い”本です。人間が科学と力を合わせて越えてきたいろいろな限界を知ることができます。この本を読むと、人間の無限の可能性に気付き、なんだか人間であることが誇らしくなるかもしれません。

川上 さおり（職員）



やりたいことをあきらめてしまいそうな時に

『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン 著, 青木 薫 訳 (新潮文庫)

「私はこの命題の真に驚くべき証明を持っているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない。」というメモが添えられた一見単純にも見える命題は、その後 300 年余りも幾多の数学者たちの挑戦を拒み続けました。この本は、この命題を証明したアンドリュー・ワイルズを中心に、証明に挑んだ数学者たちの軌跡を描いたノンフィクションです。こう紹介すると、「数学なんて難しそう」という声が聞こえてきそうですが、登場人物やエピソードがとても面白く、数学的概念がわからなくても一気に読んでしまえること請け合いです。そして、10 歳でこの問題と出会ったときの思いを 30 年後に実現したワイルズの、証明に至るまでの長い道のりと最後の瞬間に訪れた奇跡のようなひらめきを読んだとき、あきらめなければ夢は叶うという勇気がわいてくると思います。

北口 博隆 (海洋生物科学科)



超難解科学を身近な生活からリアルに見なおす

『感じる科学』

さくら剛 著（サンクチュアリ出版）

あなたは毎日の生活で“あれ、これって子供の頃に漫画本でよく見かけた事だけど、まだできてないの？”と感じている事ってありませんか。

例えば、光の屈折を利用して、スカートの中を覗けるメガネや、被ると透明人間になれる透明マント。また、TV 等でよく、飛行機に乗る人は河原を散歩している人より歳をとらないっていわれます。だったら、四六時中世界を飛び回れば、若さが保てるはず。これら数々の疑問を、日常の生活を例に女子高生、ノビ太君、ハエ男、ポチ、タマまでをも持ち出し、超難解とされる「光」「相対性理論」「万有引力」「量子論」「進化論」「宇宙」等をバカバカしくリアルに解説しています。

また、最後には宇宙年表と称した著者独自の目から見た宇宙(科学)年表が絵を交えて簡単に記載してあります。これを見るだけでも面白い！

桑田 成年（職員）



自然科学は小説より奇なり

『空想自然科学入門』

アイザック・アシモフ 著、山高昭 訳（ハヤカワ文庫）

『われはロボット（アイ，ロボット）』、『ミクロの決死圏』などのSF作品の原作者としても有名な20世紀後半を代表するSF作家、かつ科学者であるアイザック・アシモフの随筆集。科学者としてのアシモフ氏の膨大な知識を基に、生物学、化学、物理学、天文学の領域での身近なのに奥が深い不思議なこと（いわゆるセンス・オブ・ワンダー）を小説家の語り口で紹介してくれます。本書は17編の短編で構成されていて、各編は独立しているので好きなところから読んでいくこともできます。

やや皮肉的なところもありますが、ユーモアとウィットに富んだ軽妙な文章で、堅苦しい話題も美味しく食べやすく料理されています。今日の教育では、専門分野という狭い領域に区画割りで分譲されてしまった、科学というみのり豊かな果樹園を気球にのったアシモフが空から案内してくれるかのような一冊。現代科学の夢と可能性と不思議を正しく味わい、楽しむためのガイドブックとして推薦します。

伍賀 正典（電子・ロボット工学科）



科学の革命と進歩

『科学革命の構造』

トーマス・クーン 著，中山 茂 訳（みすず書房）

近年、ニュートリノは光よりも速いとの実験結果が世界中で大きく報道され、「パラダイムの崩壊か」などという言葉を目にした人も多いことでしょう。

本書の著者によると、パラダイムとは、「一般に認められた科学的業績で、一時期の間、専門家に対して問い方や答え方のモデルを与えるもの」です。パラダイム内でそれに応じた科学（通常科学）が進歩を続ける一方で、このパラダイムに適合しない変則的事象も現れてきます。その時のパラダイムを根底から覆すような変則的事象が登場してくると、そのもとで進行している科学は危機的状态に陥ります。こうして科学革命が起き、そのような変則的事象を説明できる新たな考え方をもちいたパラダイムが次の時代を支配します。科学はこのようにして進歩していくと考えられています。

著者の考え方は自然科学のみならず社会科学の分野にも大きな影響を与えています。新入生の皆さんにとって本書の内容は決して簡単なものでないでしょうが、大学で学問を探究する中で本書は必ず役に立つ一冊となるでしょう。

久松 太郎（経済学科 元本学教員）



生きているということはどういうこと？

詩的ムードが漂う科学ミステリー

『生物と無生物のあいだ』

福岡伸一 著（講談社現代新書）

「人は瞬時に、生物と無生物を見分けるけれど、それは生物の何を見ているのでしょうか。そもそも、生命とは何か、皆さんは定義できますか？」筆者の冒頭の問いに、ワクワクしながらこの科学ミステリーに引き込まれていきます。

買ってきたお肉はそのままなら腐っていくけど、そのお肉を美味しく調理して食べちゃった私の体はどうして腐らず成長（現在も成長中（笑））していくのでしょうか？この生き物の代謝（動的な流れ）の中に生命のヒントがあるようです。筆者は、生命観の変遷について、DNAをめぐる科学者達の裏舞台のヒューマンドラマとともに、彼らの発見や理論も丁寧に解説してくれます。その解説は、論理的でありながら詩的ムードが漂う筆者独特の切り口で“ブンシセイブツガク”という学問をグリーンと身近に感じさせてくれます。

刻々と壊れては再生される細胞、生命の適応能力は凄い！と感じるとともに、筆者の語るこのミステリーの結末をぜひ読んでみてください。

佐藤 理恵（職員）



この世界はたまらなく複雑で、
そしてたまらなく魅力的。

『ガイドツアー複雑系の世界』

—サンタフェ研究所講義ノートから』

メラニー・ミッチェル 著，高橋洋 訳（紀伊國屋書店）

何か問題が起きた時、「原因はこれ！」とすぐ断言する人がいます。私たちはつい、世界を単純明快にとらえようとしがちです。でも実世界では無数の出来事が複雑に絡まりあっていて、ある出来事の原因なんて簡単にはこれと決められません。一方で、世界はそんなにも複雑なのに、全体としては一定の秩序が保たれうまく動いています。かと思えば、ときには小さな出来事の連鎖が全く予想外の結果を生みびっくりさせられることもあります。この、世界の不思議！これまでに多くの科学者がこの魅力に引き込まれ、探求を重ねてきました。本書はその一端を紹介したものです。こみいった科学的説明が難しく感じるときは、目についたところをつまみぐいするだけでも充分、その魅力が伝わってきます。

ところで皆さんの大学生活ももちろん、この複雑な世界の一部です。複雑で予測不可能な日々戸惑うときもあるでしょうが、その魅力もまた味わってもらえればと思います。

藤居 尚子

（保健管理センター・心理カウンセラー／心理学科）



あなたも天才?!?

『天才はなぜ生まれるか』

正高信男 著（ちくま新書）

「天才？ 自分とは関係ない」と思っていますか。

最近の遺伝学によると、人間は誰しもが約 30 億個の塩基配列の文字リストをゲノムとして持って生まれ、この設計図にしたがって、環境要因と相互作用しながら人生を送る、しかもそのゲノムの個人間の差異は、わずかに 0.1% 程度。他方で、この 30 億文字の中に、ちよくちよく（0.1% 程度）混じっている異変や欠落の組み合わせが、心身のあまり好ましくない特性も生み出すようです。でもこれが他方で画一でない能力を覚醒させることもあり、普通の健常者とは違った天才を生むのかもしれないのです。トマス・エジソンは注意欠陥障害であったと推測されるし、クリスチャン・アンデルセンは文法障害に苦しんでいたらしく、ウォルト・ディズニーは多動児であったとのこと。劣っているところがあると、それを代償しようとして、別な能力がフル稼働するのでしょうか。これ以上は、もうこの本を読んでも見るしかないですね。

松田 文子（学長）



これで数学的思考はバッチリ！

『数学的思考の技術』

小島寛之 著（ベスト新書）

これは数学の本？いいえ、著者の言葉を借りれば「数学っぽく、ものを見て、数学っぽく、ものを考える」ことが学べる本です。数学っぽく？もう少し詳しく言うと、「ものごとを論理的に考えたり、図形を利用して考えたり、単純化してシミュレーションしてみたり」して物事に取り組むことです。

この本では、まず始めに、年金問題、ボーナスの問題（固定給、終身雇用制度なども）などの「人生の問題」に数学的思考で取り組んでいます。それにつづき、「幸せな社会とは何か」や、村上春樹論まで取り組んでいます。

著者も述べているように、数学的思考は万能という訳ではなく、その思考で解決に至らない場合もありますが、その思考により問題のからくりを見抜くことが出来る思考方法です。

みなさんもこの本を手にとって、数学的思考の技術を身につけてみませんか。

三川 敦（経済学科）



「森は海の恋人」運動に取り組んできた
カキじいさんの、命と地球をはぐくむ「鉄」物語

『鉄は魔法つかい』

畠山重篤 著（小学館）

児童向けの体裁ですが、すっかり夢中になって読みました。著者は宮城県気仙沼市でカキの養殖業を営むかたわら、漁民による広葉樹の植林活動を20年以上にわたって続けている方です。豊かな森から川をへて流れ込む土のなかの成分は、海の植物プランクトンを育て、海を豊かにする——そこで森と川と海をつなぐ「魔法つかい」が鉄分だということです。

ところで阪神・淡路大震災のとき大学生だった私は、神戸の小学校に避難所のボランティアとして滞在した経験があるのですが、そこで一緒にいたメンバーのひとりが、東北から来ていた著者の息子さんでした。そしてこのたびの東日本大震災。三陸沿岸にある家業の養殖施設は大津波によって壊滅し、生きものの姿も消えてしまいました。しかしひと月ほどして著者は、変化を感じ取ります——。序文の「東北再生への希望」に胸が熱くなりました。

山崎 理央（心理学科）



バイオリギング

動物たちの知られざる姿が明らかに！

『ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ ーハイテク海洋動物学への招待』

佐藤克文 著（光文社新書）

本書は、私の専門分野でもある動物学の研究に関する入門書である。データロガーという小型の記録装置を動物に取り付け、その動物に自身の行動と周りの環境を記録させるバイオリギングという手法を使って、人間の眼の届かないところでの動物の生態を理解する研究を行う。

海洋動物に興味がある学生には、この本をぜひ薦めたい。著者が携わったさまざまな海洋動物に関する研究内容が紹介されている。「ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ」というのは、そのひとつの発見であるが、その結論にたどりつくまでには、多くの研究者の地道な努力の積み重ねがあることを本書は教えてくれる。

動物学の研究とは、思い通りにいかないことがほとんどである。それを柔軟な発想でどう切り抜けて新しい成果へとつなげていくか、それを可能にできるのは若い世代の研究者である。本書をきっかけに、動物の生き方に興味を持ち、その発見に感動してくれる若者が増え、さらにこの分野が発展することを期待している。

渡辺 伸一（海洋生物科学科）



宇宙と死後の世界から「生きる」とは何かを考える

『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治 著（ちくま文庫）

『銀河鉄道の夜』は、宮沢賢治が死の直前まで推敲し続け、ついに未完のまま残された物語です。物語の主人公ジョバンニは、親友カンパネルラの死の間際、「銀河鉄道」という「幻想第四次」の世界を走る汽車に同乗し、死に行く友を、それと知らずに見送ります。

賢治は、最愛の妹を亡くした直後、死について激しい疑問に取りつかれました。死後の世界とは、宇宙とは、生きるとは、など、我々が生きるこの世界を含む、より大きな世界全体について、科学と宗教との両方から追究していきました。

そして、そのような心の追究の跡を、賢治は常に言葉でスケッチしていました。この物語も『心象スケッチ集 春と修羅』から発想されており、単なる作り話ではありません。自らの心の現実をじっくり見つめ、そこから独自の生き方を見出そうとする賢治の姿勢は皆さんの力になると思います。

青木 美保（人間文化学科）



興味深い演奏論
音楽と文学に通底する表現論の世界

『小澤征爾さんと、音楽について話をする』

小澤征爾×村上春樹（新潮社）

この本は裏扉に「本書は、村上春樹氏の企画・構成による／小澤征爾氏へのインタビューを収めた書下ろし作品です。」とあるとおり、今日世界的な名声を得ている指揮者の小澤征爾と、ここ数年、毎年、ノーベル文学賞の受賞が話題になっている、小説家村上春樹の対談集です。コラボレーションと言ってもいい。グレン・グールドやバーンスタイン、カラヤンらが演奏したCDを、ふたりが聴きながら、主に村上が小澤の話を引き出してゆくというスタイルがとられています。充実した内容で、いろいろな視点から楽しむ事ができますが、特に作曲と演奏との関係が詳しく語られ、演奏論、表現論として秀逸です。文学を学んでいる私は、スコア（総譜）を読みこむことの意味、音楽のディレクション（方向性）についての話題、文学にしる音楽にしる、「自分が何をどういう風にやりたいのかを、はっきりと心に定める必要が」とあるという、ふたりの指摘などに、大きな刺激を得ました。

位藤 邦生（人間文化学科）



生きること、自分の大切さに気付ける一冊

『ハッピーバースデー』

青木和雄，吉富多美 著（金の星社）

主人公のあすかは、母の心無い一言から声が出せなくなります。あすかは、母の両親である祖父母のおかげで声を取り戻し、明るくなります。しかし、あすかに優しい祖父母も、母にとっては愛をくれない両親でした。誰にも愛されず、鎧を身に着けることで自分を守っていた母は、職場の年若い上司なつきのおかげで、徐々に自分と向き合うようになります。

愛とは何か、と考える母娘の再生の物語です。

内海 敬 絵（海洋生物科学科 3 年）



もう一度、古典を

『日本語の古典』

山口仲美 著（岩波新書）

「春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく
山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそ
くたなびきたる。」高校時代に習った『枕草子』
の第一段は、色彩豊かな文章で始まります。作
者の清少納言の繊細さが際立つ一節です。さ
て、科学の進歩とともに、人生観や価値観は大
きく変化しました。でも人間の思考能力や感性
は、僅か千年ほどの歳月で変わるものでしょ
うか。そこで、もう一度、日本の古典を読んで
みたいになりました。でも、その解説書は難し
くて退屈と思っていた矢先、本書に出会ったの
です。作者は日本語学者の山口仲美氏。奈良
時代の『古事記』や江戸時代の『おくのほそ
道』など、歴代の名作を取り上げては、日本
語の感性をもとにその面白さを解き明かし
てくれます。目次 30 選の中には、乱世を
生きた人々の物語『平家物語』も易しく
解説されており、次はこれを読んでみたい
と思わせてくれます。もう一度、古典をと
思った私のお気に入りの一冊となりました。

金尾 義治（薬学部）



僕たちの両手はなにかを掴むためにある

『半分の月がのぼる空』

橋本 紡 著（メディアワークス）

不治の病に侵された少女と同じ病院に入院した少年との出会い、そしてそれを支える周りの人々を通して日常の中での“いつかは終わりの来る日常”と向き合う、恋愛小説です。先に待つものが過酷で悲しい運命だとしても、奇跡を許さない世界の中で、悩み苦しみ、人生を精一杯歩んでいこうという、ふたりの決意が身近に感じられ、物語を読んだ人はふたりを応援せずにはいられなくなります。派手さのない等身大の物語ですが、だからこそ何でもない日常がいかに大切か、日常の生活の中であるからこそ得られる感動があることをこの本を読んで実感することができると思います。人は決して同じ場所にとどまれません。泣きながら、あるいは喚きながら、とにかく歩き続けるしかない。なにかを捨てて、別のなにかを選び取らなければならないときもある。この物語で人々が行ったのは、つまりそういうことなんだと思います。少なくとも私にとってこの作品はこれまでの人生でもそしてこれからの人生でも最高の一冊です。

竹中 克文（心理学科平成 23 年度研究生）



読まないままに死んでしまうにはあまりにも惜しい
それに、面白い！

『罪と罰』

ドストエフスキー 著（岩波文庫）

貧しい大学生のラスコーリニコフは、人間には多数の人を殺しても許されるナポレオンのような「特別の人」と歴史の材料に過ぎない「普通の人」があり、自分は「特別の人」だとの妄想に取りつかれ、金貸しの老婆を殺害する。しかしながら、罪の意識と予審判事の執拗な追及に神経をすり減らした「普通の人」ラスコーリニコフは耐え切れずに自首し、シベリア流刑となる。鬱々たる日を送っていた彼は、純粹無垢の娼婦ソーニャの無私の愛に、ある日喜びと悲しみの感情が湧き上がり、新しい人間として再生を感じる。

『罪と罰』は、人が規定した罪と神が定めた罪の問題、人間の強さと弱さ・優しさと嫌らしさ、極貧にある人間の悲しみ、魂の救済とは？等がある時は語りで、またある時は夢によって浮き彫りにしながら、古都ペテルブルグを舞台に、刑事コロンボのような犯人が分かっているミステリーの面白さで展開される。

同じ作家の『カラマーゾフの兄弟』とともに読まねば一生の損になる作品である。

富士 彰夫（国際経済学科）



医療の現実—地方、老人、救急、末期等々の諸問題—

『神様のカルテ』『神様のカルテ2』

夏川草介 著（小学館）

タレントの櫻井翔君が主演で映画化されたことでも有名になった本です。地域医療を担う病院勤務の主人公、一般内科医栗原一止（クリハラ イチト）の活躍ではなく、むしろtwitter、「つぶやき」を小説化した感じです。地方の医療の現実、医師不足（おそらくは薬剤師やその他の医療関係者も不足＝小説に記述はありませんが）という現状を正確にとらえ、その中で働く現状と私生活をうまく混和しているところが、小説をよりリアルな感じにしています。また、これまでの医療小説にありがちな重いストーリーのみならず、一止の喋り方の変人振り（笑）と一人一人がとても個性的な登場人物とうまく調和して、時にはコミカルな場面も多くあり、多くの人と人との関わりも面白いポイントの一つです。なお、「一止」は合わせると「正」になります。本もそれほど厚くなく、文字も大きめなので普段は本をあまり読まない人にもさらっと読んでもらえる作品だと思います。是非、お勧めします。

森田 哲生（薬学部）



海辺の街での退屈なひと夏の物語

『風の歌を聴け』

村上春樹 著（講談社文庫）

主人公である〈僕〉が

不完全な文章で語る、

海辺の街での退屈なひと夏の物語。

山中 友貴（人間文化学科 3 年）

推薦図書リスト

- 『愛するということ 新訳版』エリヒ・フロム；鈴木晶訳（紀伊国屋書店，1991年）
- 『言いたいことが言えない人：「恥ずかしがり屋」の深層心理』加藤諦三（PHP研究所，2006年）
- 『一流の人に学ぶ自分の磨き方：全米屈指の超人気セミナー講師が伝授する12の成長法則』ステイフ・シボルト；弓場隆訳（かんき出版，2012年）
- 『小澤征爾さんと、音楽について話をする』小澤征爾，村上春樹（新潮社，2011年）
- 『大人の時間はなぜ短いのか』・川誠（集英社，2008年）
- 『大人の流儀』伊集院静（講談社，2011年）
- 『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』白井恭弘（岩波書店，2008年）
- 『カイト・ツア-複雑系の世界：サンタフェ研究所講義ノートから』メニ・ミッチェル；高橋洋訳（紀伊国屋書店，2011年）
- 『科学革命の構造』トマス・クーン；中山茂訳（みすず書房，1971年）
- 『隠された十字架：法隆寺論』梅原猛（新潮社，1972年）
- 『風の歌を聴け』村上春樹（講談社，2004年）
- 『神様のカルテ』夏川草介（小学館，2009年）
- 『神様のカルテ 2』夏川草介（小学館，2010年）
- 『感じる科学』さくら剛（サンクチュアリ出版，2011年）
- 『銀河鉄道の夜；風の又三郎；セ弾きのゴーシュほか』宮沢賢治（筑摩書房，1985年）
- 『空想自然科学入門』アイザック・アシモフ；小尾信弥，山高昭訳（早川書房，1978年）

『「グッ」とくる言葉：先人からの名言の贈り物』晴山陽一（講談社，2011年）

『原発のウソ』小出裕章（扶桑社，2011年）

『効率と公平を問う』小塩隆士（日本評論社，2012年）

『国家の品格』藤原正彦（新潮社，2006年）

『コラーが教えてくれたこと：女子大生ベント*が実践したマーケティング』西内啓，福吉潤（ばる出版，2010年）

『十二番目の天使』オグ・マンディノ；坂本貢一訳（求龍堂，2001年）

『18歳からのキャリアプランニング：これからの人生をどう企画するのか』大久保功，石田坦，西田治子（北大路書房，2007年）

『純粹ヲ批判』土屋賢二（講談社，2012年）

『数学的思考の技術』小島寛之（ベストセラーズ，2011年）

『生物と無生物のあいだ』福岡伸一（講談社，2007年）

『大学生がダメされる50の危険』三菱総合研究所，全国大学生生活協同組合連合会（青春出版社，2011年）

『ダメ人間：溜め息ばかりの青春記』鈴井貴之（メディアファクトリー，2012年）

『超常現象をなぜ信じるのか』菊池聡（講談社，1998年）

『罪と罰 上』ドストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，1999年）

『罪と罰 中』ドストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，1999年）

『罪と罰 下』ドストエフスキー；江川卓訳（岩波書店，2000年）

『冷たい密室と博士たち』森博嗣（講談社，1999年）

『デートの罠』田村秀（集英社，2006年）

『鉄は魔法つかい』畠山重篤；スキヤマカヲ絵（小学館，2011年）

『天才はなぜ生まれるか』正高信男（筑摩書房，2004年）

『7つの習慣』ステイブ・ノ・R.コガニー；ジェームス・スティー，川西茂訳（キング・ヘア出版，2009年）

- 『日本語の古典』山口仲美（岩波書店，2011年）
- 『人間はどこまで耐えられるのか』フランセス・アッシュクロフト；矢羽野薫訳（河出書房新社，2002年）
- 『ハッピー・ハースター』青木和雄，吉富多美（金の星社，2005年）
- 『はなちゃんのみそ汁』安武信吾，安武千恵，安武はな（文藝春秋，2012年）
- 『ハ・バ・ラキ：はじめて文明を見た南海の酋長ツイビの演説集』エーリッヒ・ショイルマン；岡崎照男訳（ソフトバンククリエイティブ，2009年）
- 『半分の月がのぼる空』橋本紡（メイワックス，2003年）
- 『フェルマーの最終定理』サイモン・シン；青木薫訳（新潮社，2006年）
- 『フューチャー・イズ・ワイルド』トーマス・カル・ディクソン，ジョン・アダムス；土屋晶子訳（ダイヤモンド社，2006年）
- 『不惑のフェミニズム』上野千鶴子（岩波書店，2011年）
- 『ペンギンもクワラも秒速2メートルで泳ぐ：ハワイ海洋動物学への招待』佐藤克文（光文社，2007年）
- 『やさしき精神病理』大平健（岩波書店，1995年）
- 『夢をかなえるゾロ』水野敬也（飛鳥新社，2007年）
- 『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー；野崎孝訳（白水社，1984年）
- 『収容所（ラゲリ）から来た遺書』辻見じゅん著（文藝春秋，1992年）
- 『レポートの組み立て方』木下是雄（筑摩書房，1994年）
- 『わたしと小鳥とすずと』金子みすゞ（JULA出版局，1984年）

新入生にすすめる 50 冊の本 2013

2013 年 3 月 27 日発行

編集・発行

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会

〒729-0292

広島県福山市学園町 1 番地三蔵

福山大学附属図書館

印刷 岡山県農協印刷株式会社



福山大学附属図書館

『新入生にすすめる 50 冊の本』刊行委員会